第６回　松本市史 平成・令和版 編集委員会　会議録

日　　時　　令和８年１０月１３日(火)　１０時～１１時３０分
場　　所　　松本市文書館　講義室
出席者　　・編集委員　直井雅尚委員、遠藤正教委員、一ノ瀬幸治委員、渡辺宏委員、柏澤由紀一委員、松澤果穂委員、窪田雅之委員
・事務局　長岡大介行政管理課長、逸見和行文書館長、
木曽寿紀専門員(兼委員)

１　開会
２　あいさつ（長岡行政管理課長）
３　会議（議長　窪田委員長）
⑴　協議事項
ア　今後のスケジュールについて
（議長）
初めに、今後のスケジュールについて事務局から説明願いたい。
（事務局）
（資料をもとに説明）
（議長）
スケジュールについて事務局から編集委員会、編集委員、事務局それぞれこんな流れでいきたいという説明があった。我々も分かってはいたがタイトなスケジュールになることは共通認識しているところ。来年の１２月刊行ということから逆算して編集委員会も決めているようだ。ただいまの説明に対し質問、意見があれば。
（Ｂ委員）
印刷契約後の流れのなかで、校正は何回くらい予定しているのか。
（事務局）
どの程度の形で入稿できるかにもよるが、３回若しくは４回と考えている。
（Ｂ委員）
今回は色校正についてはあまり気にしなくてもよいのではないか。
（事務局）
おそらくそうだと思う。博物館や美術館の展覧会のものなどは発色具合などを意識すると思うが、今回の市史については写真やグラフなどを多く掲載することにしているものの、図録のような精度は求めなくてもよいと考えている。どちらかというと文字の部分が中心となる。
（Ｂ委員）
編集委員の執筆が入稿まで伸びているが、一旦の締切はいつくらいを想定しているのか。全体構成もしなければならないことを考えると、かなり早い段階で原稿を書き上げて全体を合わせて調整という作業が発生してくるのではないか。編集委員の第１段階の締切はいつになるのか。

（事務局）
　現在のところそこまで決めていない。これまでの打合わせ内容からすると、第１章から第３章までを早めに進めて第４章がその後という流れとなる。締切等の日程については改めて提示したい。
（議長）
　複数の委員が原稿を書くので、第１次締切、第２次締切、最後というように決めてほしい。これまでの経験から全員の原稿がぴたっとそろって出せるということはなかった。そのあたりも想定してスケジュールを組み直してほしい。
（D委員）
　校正手順はどのようにやるのか。データかプリントアウトしたものか。委員全員分をプリントアウトするのは結構厚いので大変だと思うが。
（事務局）
　そこはまだ決まっていない。ある程度のところで原稿をプリントアウトして見ていただくということになるかと思う。入稿後はレイアウトしたものを見ていただくことになり、その時々の状況によると考えている。入稿後、一旦は形にしたものでと考えている。
（D委員）
　個人個人それぞれにプリントアウトしてもらえるのか。１冊当たり結構厚くなるが、それに対応してくれるのか。初稿は対応してくれると思っているが、どんな感じか。
（事務局）
　おそらく紙のほうが見やすいという方が多いと思うので対応したいが、印刷業者にどこまで対応してもらえるかということにもよる。もし１部ということであれば、カラーというわけにはいかないが事務局でコピーして委員の皆さんの要望に沿う形で対応したい。
（議長）
　経験上申し上げると、プリントアウトするには経費がかかる。契約金額にもよると思うがその辺りも含めて業者と話をしてほしい。できれば個々で確認できるのがよいとは思うが、校正段階ではできるだけ執筆者が確認しやすい方法を事務局でも検討してほしい。
（A委員）
　入稿の形式はどのようになるのか。例えば、自分たちですべてレイアウトも含め固めたものをデータで渡して印刷だけしてもらう。そうすると、こちらの作成したとおりに印刷できているのか、文字化けしていないのかということだけ確認すればよいことになり校正自体は楽になる。しかし、そうすると業者選定においても編集が必要ないということで軽印刷でもよいということになってしまうが、今回は最終的なものは印刷業者にお願いするという形で考えてよいか。
（事務局）
　委員発言のとおりの方向で考えている。一定程度、デザインやレイアウトについ

ても業者にお願いしたいと考えている。
（議長）
　スケジュールを見ると２月の委員会でレイアウトを決定することになっているが、すぐには決まらないと思うので、できれば１２月の委員会で素案を示していただきたい。
（事務局）
　事務局で文字数や行数などの案を作って次回の委員会で示したい。

イ　執筆分担の変更について
（議長）
　次に、執筆分担の変更について事務局から説明願いたい。
（事務局）
　　（資料をもとに説明）
（議長）
　今回から新たにH委員に加わっていただいた。前回事務局から示してもらったものにH委員の名前が無かったので入れてもらった。このような形でよろしいか。
　　（特に意見なし）

ウ　第４章の執筆項目について
（議長）
　次に、ウの第４章の執筆項目について事務局から説明願いたい。
（事務局）
　　（資料にもとづき説明）
（議長）
　過日各委員にお願いして出してもらった。H委員はその時はまだ入っていなかったので出してもらえず申し訳なかったが、今後お願いすることになる。C委員も出してもらってないので、候補はこれより増えることになる。委員ごとのものは１～２ページにあるが、これを似たようなものをまとめるなど事務局で整理をしてもらった。第１章から第３章も大事だが、第４章がそれぞれの委員の思いを出してもらえる部分ではないかと思っている。意見・質問があれば。
（D委員）
　これを出すときに迷ったのは、コラムと第４章の扱いをどうすればよいかということ。自分なりの理解としては、コラムは事柄や事件など第３章をフォローするようなことを詳しく書く。コロナとかサリンのことをしっかり書くというイメージ。第４章は、平成・令和の変化が分かるようなものをきちんと書く。変化によって何が失われて何が生まれてきたのかということをまとめるのがよいと自分なりに理解しているが皆さんはどうか。
（事務局）
　委員の皆さんからどういった視点で区分けするのか意見を出していただいて、で

きるだけ共有できるようにしていただきたい。
（議長）
　D委員の考え方は先ほどお話いただいたとおり。他の委員の皆さんはいかがか。
　D委員、もう一度第４章とコラムの違いというか考えをお話しいただきたい。
（D委員）
　コラムは第３章の注釈のようなもの。重大事件とか事故などをしっかり書くのがよいと思っている。第４章は変化をきちんと捉えることに徹したほうがよい。ここで昭和のエピソードが入ってくるよりも平成・令和がどう変わったのか分かるようなことを書いたほうがよいと考える。
（議長）
　第３章は市政と市民のくらしということで、市政の移り変わりや施策のことも出てくるが、コラムは第３章をフォローするというか第３章の注釈のような位置付けにしたらどうか。一方、第４章は平成・令和の時代の動きというか変化というものを扱ったらどうかというような考えを述べてもらった。このあたりはしっかり共有して執筆に入らないとコラムなのか第４章なのか分からないということになってしまう。コラムはこうだ、第４章はこうだということをしっかり決めておいて執筆に入ることが大事。
（E委員）
　D委員が言われるように、コラムに扱うのは平成・令和におきた第３章を補完して特筆すべき大事件とかこれだけは深掘りするという項目であるのに対し、第４章は多彩な編集委員がこれまで携わってきたことのなかで、こんなこともあったと紹介するエピソードという位置付けになるのではないか。
（議長）
　今E委員から分かりやすく話してもらった。コラムは特筆すべき大事なこと、第４章はエピソード的なことや自分がよく知っているような内容で執筆したらどうかという意見だった。他の委員の皆さんはどうか。
（B委員）
　第３回編集委員会でコラムの位置付けについて事務局方針の資料をもらったが、そのなかでは、正史から落ちていく市民目線の項目をコラムに付与するということと、第１章から第４章に散らして差し込んでいくということが示されている。これは方針が変わって、今は第３章の補完にするということでよいか。
（事務局）
　第３回編集委員会の時点では一旦その内容でお示ししたが、その時点では例えば第４章で何を書くかということが必ずしも明確ではなかったと考えている。その後第４回、第５回の編集委員会のなかで、各章で具体的にどのようなことを書くかということがある程度明確になってきた。そこで、改めてコラムの位置付けについて考えなければならないと理解している。したがって、第３回編集委員会当時とは若干ニュアンスは変わってくると思うが、この機会に認識を共有していただければありがたい。

（議長）
　第３回編集委員会当時は全体をしっかり詰めていないなかで一般的にコラムというものはこんな感じに入れ込むものとして整理したという状況だった。今事務局から説明があったが、回を重ねて第４章をどうするか皆さんからいろいろな意見を出していただくなかで、ほかの部分が固まりつつあることに連動するかたちでコラムの位置付けも第３回編集委員会当時から少し性格を変えた中できちんと位置付けをしていきたいということなので、皆さんよろしいか。
（Ｃ委員）
　コラムを入れる理由がメリハリをつけるということからすると第４章は変化をとらえるというのはそのとおりだと思う。また、コラムで取り上げる部分は第４章にとらわれないものも出てくると感じている。
（議長）
　コラムの性格付けと第４章については皆さんほぼよいという意見のようだった。コラムについてはどういうものを取り上げていくかについて改めて次回以降の会議のなかでしっかり議論していくことになると考えている。
（Ｇ委員）
　旧来の松本市史の構成のように第４章は社会、文化であり、前段の市勢、市政のあとにくるところを考慮すれば、第４章は概ね先ほどＥ委員が発言したとおりだと思うが、第４章の部分は平成・令和のみならずかなり広くゆとりを持たせた書きっぷりでもよいのではないか。第４章はかなりの分量になると思うが、読んでもらう市史という点からすると当然平成・令和にかかる追記版なので大切なところではあるが、社会、文化、世相史のところなのでそこがぶれないようにしたい。
（Ｄ委員）
　自分のイメージだとＥ委員の言った「私だけが知っている」というようなものはコラム扱いでよいと思っている。第１章から第３章に入れてアクセントをつけるという感じでよいのではないか。第４章は平成・令和の変遷を追った方がよいと考える。せっかくの平成・令和版なのでそこに焦点を絞った方がよい。
（Ｄ委員）
　執筆分量、１項目でどの程度書くことができるのか。変化というと結構長くなるが１事件だと割と短く書くことができる。
（議長）
　レイアウトを含めて各章ごとにこういった項目で何字ということはいずれにしろ決めていかなければならず、そこも含めて事務局に示してもらうようお願いしたつもり。したがって、コラムの文字数、第４章の１項目がどのくらいの文字数かということを事務局から示してもらうと執筆者側もイメージがわくと思う。
（Ｄ委員）
　普通コラムのページは奇数偶数のページを合わせるために挿入することが多いが、その辺もどう考えていくか。しっかり決めてしまうと後々困ることもあるのではないか。

（事務局）
　現時点では流動的かなと思う。しっかり決めてしまうと載せたくても載せられない、レイアウトで困ってしまうということにもなりかねない。コラムの数にもよるし今後検討していかなければならないものと考えている。
（D委員）
　コラムはたぶん書きやすいと思う。個人のエピソードでも何でもよいので。重大事件にこだわらなければすごく書きやすくなるので、そのくらいのゆるやかさがあってもよいのではないか。
（事務局）
　今D委員から発言があったが、コラムとしてどのようなことを書くのかということと第４章で書くことの整理をここでしっかりしていただきたい。
（議長）
　改めてH委員とC委員から第４章で記載する項目の案を出していただき、ほかの委員も再度検討していただき、それらを含めて改めて委員会のなかで提示してもらいたいと思うが事務局としてはどうか。
（事務局）
　そのようにしていただければありがたい。先ほど第４章とコラムの位置付けについてD委員とE委員からご意見をいただいているが、若干異なる部分があるように思われるのでここで整理していただき、第４章はこのようなもの、コラムはこのようなものというイメージを共有していただきたい。
（議長）
　コラムと第４章の位置付けの違い、区分けについて各委員のなかで思いはあると思う。今日すぐに明確にはならないと思うが一旦課題を出してもらったので改めてこの点を整理して進むようにしたいと思っている。
（D委員）
　コラムというものは一言では言えないのではないか。例えば、「私の思い出」とか「私だけが知っている」とか「事件」とか項目分けをして差し込んだらどうか。自分の案だと第４章は変遷を追ってその中にコラムのようなものを挟んでもよいと思う。
（A委員）
　第４章はそれぞれが書きたいこと、書けることを出してもらったが、これを見ると第４章で書くもの、コラムとするものが混ざっている気がする。それぞれの委員が書けること、書きたいこと、もっと言えばこれは市民が注目すると思うことを出したうえで、第４章とコラムの振り分けをしたほうがよいのではないか。第４章の基本は平成・令和のなかで新たになったこと、変わったことだと思うが、通史のなかでは書ききれない、系統的にとらえきれないものという切り口も第４章の使命だと思う。
（議長）
　共通している部分は、平成・令和の変化、追記版という位置付けから平成期に発

行した市史に記載されていない部分は新しい時代の変化としてとらえる、そこが第４章だと思う。それと、第１章で概論としてあゆみを書くことになっているが、そのなかでなかなか触れられない部分、そこからこぼれてきたものを第４章で扱うということが以前から委員会のなかで出されている。そのあたりは共通理解をしてもらっていると思う。そのなかでこの一覧を見たときに第４章なのかコラムなのか各委員の見方によって違うかもしれない。その点もふまえて、新しい委員もいることからもう一度出してもらって整理することが必要だと思っている。事務局はどうか。

（事務局）

今回一旦出していただいているが、改めて整理して出していただきたい。第４章とコラムの認識が共有できてきていると思うので、改めて各委員において第４章で書くもの、コラムとして書くものを分けて提出いただき、次回の委員会の際にまとめてお示ししたいと考えている。

（議長）

今事務局から依頼があった。一旦はここにまとめてあるように出していただいているが、今日の委員会での議論のなかで変化する部分、気付く部分があったかと思うので第４章とコラムも含めて出してもらい、次回の委員会で意見交換をしたい。

（D委員）

全て自分で書けるわけではないので、自分が書くものと書いたほうがよいものを分けたほうがいい。また、専門外のものは専門家に振った方がいいと思うのでそういう仕分けをしておいたほうがいいと思う。

（議長）

項目を出したけれど誰も書く人がいないというのはよろしくないので、今D委員の発言のとおり自分としてはこれを書きたい、というものと、自分は書かないがこれは誰か他の委員のほか専門家も含めてもらい松本市史平成・令和版にふさわしいという位置付けで皆さんから出してもらいたいと思う。改めて事務局から各委員に対し依頼を出してほしい。

全体を通じてなにか意見はあるか。

（Ｅ委員）

第１章から第３章までの基になる事務報告書など収集は順調に進んでいるのか。

（事務局）

現在、事務報告書と市政概要の収集を始めているところ。どちらも若干は文書館にあるが抜けているものを庁内にあたっている。どちらも平成以降で欠けている年もあるが所在は判明しているという状況。一部データで提供してもらったが、冊子についてはコピーをする必要があり今月中には一定程度収集するつもり。各地区の資料については、既に各地区にある資料の提供を各地域づくりセンター長にお願いしている。こちらも今月中を目途にお願いをしている。来月初旬にはある程度お示しできるかなと思っている。

（Ｂ委員）

収集資料の共有方法はどのように考えているか。

（事務局）
　データがよければデータで、紙のものはコピーをしなければならないのでコピーをして紙ベースでのお渡しと考えていた。
（D委員）
　資料の予備はないのか。
（事務局）
　ほとんどの資料が予備はなく１冊しかないとのこと。市政概要や事務報告書はコピーをして、それぞれの委員の担当ごとに分けて渡す形を考えていた。
（B委員）
　ほかのところではクラウド上の共有スペースにスキャンしたデータをアップしておいて各委員でご覧くださいというやり方をしていた。担当分野だけもらうのもいいが、その年なにがあったのかとか周辺事項を確認するにはスキャンしたデータをどこかに置いておき必要に応じてそれを見るというのが良いのではないか。
（事務局）
　データをアップするほうが事務局としては助かるがその方向でよろしいか。
（D委員）
　担当地区のものくらいは欲しい。例えば地区の公民館がまとめた冊子などは欲しい。
（事務局）
　各地区のものはそれぞれ来るはずなので、それをそのまま預ける形で対応したいと考えている。先ほどの市政概要と事務報告書についてはどこかにアップする方向で検討する。個別の委員で該当部分を紙で欲しいという場合は改めてご相談いただきたい。
（議長）
　いずれにしろ地域づくりセンターなどから資料を提供してもらわないと執筆できない部分もあるので、資料の共有については事務局で工夫をして対応してほしい。
（D委員）
　３５地区の割当てはこれで決まりか。自分は松原地区になじみがないのでできれば避けたい。交換できるなら交換したいが、そのような交渉は個人個人でやればよいか。今この場がよいか。
（事務局）
　今ここで決まれは皆さんが共有できるのでそのほうが良いと思う。
（D委員）
　岡田地区と松原地区を交換してもらえないか。
（E委員）
　松原地区は寿、内田、芳川と同じエリアなので私がやってもよい。
（議長）
　前回の委員会で第２章の概要・執筆分担ということで事務局から示されたものに基づき一応分担が決まったが、他の章も含めて不都合な部分が出てくると思う。そ

の場合は委員同士で話をしてもらい、交代した部分や新たに加えた部分があれば事務局へお知らせいただきたい。事務局はどうか。

（事務局）

そのとおりお願いしたい。前回お示ししたのは事務局で単に割り当てただけなので個別に変更してもらってかまわない。その際には事務局にお知らせ願いたい。今日は松原地区についてD委員からE委員へ替わるという点は事務局として承知した。それ以外に変更があれば個別に対応をお願いしたい。

（B委員）

第４章の担当に食べ物、飲食というテーマがあったがあまりなじみがなく、これはというものを挙げることができない。昔から住んでいた人がそれぞれの世代で思い入れのある店や食べ物を紹介していくのがいいのではないかと考えた時、外部の人へのインタビューやどこかの公民館の利用団体にアンケートをとるなど外への働きかけをしていくことが考えられる。その際委員が個々に行ってよいのか事務局を通して何らかのアクションを起こしたほうがよいのか。

（事務局）

その点は適宜ということになる。個々の委員がそれぞれ進めていただいてよいが、事務局を通したほうがよさそうな場合はコミュニケーションをとりながら進めたい。

（B委員）

公民館などは既に協力依頼が行っているので委員個々でもよいと思うが、それ以外の外部など判断に困る時は事務局に相談する。

（議長）

一旦事務局に相談してもらうということと、時間の関係で先に接触した場合など、結果報告でもよいので事務局へ報告をお願いしたい。

（B委員）

一応事前にメールを入れておいたほうがよいのか、事後報告でよいか。

（事務局）

メールでよいので事前に一言連絡してほしい。

（議長）

今日は新たにH委員をお迎えして、第４章を中心に様々なご意見をいただいた。事務局はいろいろ整理をして提示してもらうことが多いと思うがよろしくお願いしたい。

議事を終了し、進行を事務局に返す。

４　閉会